



学校だより

6月号

横浜市立大道小学校

令和4年5月31日



← 学校 WEB ページはこちらから

副校長 山方 健一

心をつなぐ あいさつ

校内を歩いていると、多くの子どもたちから「おはようございます。」「こんにちは。」という声が聞かれます。大道小学校に着任し、私が感じる大道っ子のよさの一つが、「自分からあいさつができる」ところです。そんな子どもたちの姿から、日々活力をもらっていることは言うまでもありません。

あいさつは、よりよい人間関係を築いたり、人とのコミュニケーションのきっかけとなったりする意味で、大人は「あいさつがしっかりできる子になってほしい」という願いをもって、子どもたちにあいさつすることを促したり、その大切さを伝えたりします。きっとそれは、大人や社会人になったときに、あいさつが人と関わるうえで重要であると実感する場面が増えるからではないでしょうか。

今、私自身、朝校門に立って子どもたちとあいさつをするとき、大道っ子だけでなく、登校途中の中高生や地域の方々や「おはようございます。」という一言を交わすことで、自分自身も気持ちがよく、一日の始まりをさわやかに迎えらるることを実感しています。当然、相手からあいさつをされるとうれしい気持ちになりますし、あいさつをすると自分も晴れやかな気持ちになる、“された相手もした自分も気持ちがよい”、それがあいさつをする価値やよさの根幹のように思います。

大道っ子の子どもたちに、日常的にあいさつが身に付いているのは、子どもたち自身があいさつをする価値やよさ、その気持ちのよさを実感しているからだと感じています。そして、その背景には、各ご家庭でのお子さんへの温かい関わりや日々の声かけ、ご支援があつてのことと、保護者の皆様への感謝の気持ちともに、学校としてもとても心強い限りです。

また、5月23日の朝会の際に、日々お世話になっている見守り隊の方々にご来校いただき、お一人ずつ、子どもたちに向けてメッセージをいただきました。そのなかで、見守り隊の方々からも、大道小学校の子どもたちのあいさつから、元気や力をもらっている、とのお言葉をいただき、とてもうれしく思いました。同時に、こうして、たくさんの地域の方々を支えられ、温かく見守っていただいていることを大変ありがたく、また幸せに思います。



最後に、「挨拶」という漢字の成り立ちを調べてみると、「お互いに心を開いて、相手の心に近づく」という意味が込められている、とありました。言い換えると、あいさつは、「あなたのことを大切に思っています。仲よくしましょう。」そんなメッセージなのだと思います。あいさつは、とても短い言葉ですが、相手の気分を一瞬に幸せにできる「魔法の言葉」なのかもしれません。そんな、周りの人を幸せにできる大道っ子は、心の開かれた、やさしい心のもち主だということですね。

これからも、子どもたちとともに大道のまちに気持ちのよいあいさつの声を響かせて、保護者の皆様と地域の方々、学校が手をとり合いながら、心をつなぐ関わり合いを築いていかれたら幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。